

交流の部では、専門分野の異なる 6～7 名で発表しあうグループセミナー、通常の懇談会、特別企画「座談会」を行いました。座談会は参加者・講師間の交流を促進するために今回初めて導入された企画です。

2 若手の姿～当日の様子から～

当日は各企画を通じて参加者それぞれが有意義な 5 日間を送っていたと認識しております。まず、講義・集中ゼミでは参加者自身の専門分野ではない分野のものを受講している参加者も見受けられ、自らの知識をより広げようという心意気を感じられました。多くの参加者が積極的に講師に質問し、講義内容について食事や懇談会などの時間にも議論を行う姿もありました。分科会では一般の発表者をホームページ上で募集しましたが、定員以上の応募があり、多くの参加者に自身の研究を発表しようという意欲を感じました。ポスターセッションにおいては飛び入り参加者もいました。今回はポスター会場を懇談会場と同じにし、懇談会中にもポスターを設置したところ、ポスターセッションの時間外にも発表をしている参加者も見受けられました。座談会には講師の方々への多数の質問が寄せられました。具体的には学生時代に苦労したことは？学生時代に夏学に参加したときの思い出は？博士課程に進むか迷ったか？今のポストにつくまで、どんな苦労があったか？大学院在学中の結婚・出産をどう思うか？結婚前後で研究に対する意識の変化は？プロポーズの言葉は？といった質問内容がありました。

次に、一般参加者を対象に行ったアンケートを通して寄せられた声を幾つか紹介します。

- 学会とは違い、初心者でもわかるような説明が聞けたし、初歩的な質問にも丁寧に答えてくれてよかった。
- 同分野、異分野の人と話ができて、有意義だった。
- 自分の研究について見直すいい機会になった。
- 自分に近い分野の仲間と出会えて励みになった。
- ポスターセッションやグループセミナーは全く知らない分野でも、初歩的な質問が気軽にできて勉強になった。
- 普段長時間話せない先生と食事や懇談会で話す機会があるのはよいと思った。
- 第一線で活躍する先生方の研究に対する思いはとても勉強になった。
- 先生方の人生観や哲学が聞けて面白かった。
- 大変刺激的な五日間となった。

以上の声からも、参加者は講義・集中ゼミやポスターセッションなどの企画を十分に活用し、交流を通して広く刺激を受けた、ということが読み取れます。

3 決算報告

表 3 に第 59 回物性若手夏の学校の決算を示します。

表 3：第 59 回物性若手夏の学校決算

収入の部		支出の部	
機関からの援助	1,692,249	講師招聘費	677,510
材料科学技術振興財団	100,000	世話人援助費	896,100
東北大学金属材料研究所	205,200	参加者援助費	347,000
京都大学基礎物理学研究所	487,050	テキスト印刷費・郵送費	444,160
東京大学物性研究所	499,999	ポスター印刷費・郵送費	132,173
浜松観光コンベンションビューロー	400,000		
企業等協賛金	1,212,000	概要集等印刷費・郵送費	237,600
参加費等	980,000	企画運営費	332,139
テキスト収入他	111,300	準備局経費	737,584
預金利息	97		
小計	3,995,646	小計	3,804,266
第 59 回のための準備金	845,697	第 60 回のための準備金	1,037,077
合計	4,841,343	合計	4,841,343



図1：講義の様子、集中ゼミの様子



図2：分科会発表の様子、ポスター発表の様子

